文語日誌 (平成二十八年一月十二日)

「渡部昇一 の日本内閣史」 (德閒書店、 平成二十七年九月刊)を讀む。

シャルルドゴール空港にて御名刺頂く機あり、爾來二十有餘年、先生(一九三〇年渡部昇一先生の令孃御夫妻とはパリ駐在時代に親しくさせて頂きたるご緣あり。 八十五歳とならるるも盆々矍鑠、潑剌におはするは、 先生の最新著作、 併せて近き時代につきては自身の記憶せることも語る。 極めて意欲的なる内容にて、 我が國歷代內閣の交代理由を丹念に調査 高齢化社會を生くる手本とすべ 先生(一九三〇年生れ)、 當時

歴代內閣交代の理由は、左の如し。

初代 伊藤博文、 憲法制定に全力投球するため。

二代 黑田清隆、 外國人裁判官任用問題。

三代 山縣有朋、 朝鮮半島利益線確保のための軍事豫算計

四代 松方正義、 品川內相選擧大干涉。

五代 伊藤博文 (二次)、板垣・山縣の反發。

六代 松方正義 (二次)、地租增徵。

七代 伊藤博文 (三次)、 自由黨と進步黨の合併 (憲政黨結成)。

八代 大隈重信、 星亨の憲政黨潰し。

九代 山縣有朋 (二次)、伊藤・星の政友會。

伊藤博文 (四次)、 渡邊藏相の首を切れず。

桂太郎、 ポ -ツマス條約不人氣。 (在任最長一六八一日)

十二代 西園寺公望、山縣の批判。

十三代 桂太郎 (三次)、 關稅自主權囘復を機に。

十四代 西園寺公望 (二次)、陸軍二個師團問題。

十六代 山本權兵衞、シーメンス事件。 十五代 桂太郎 (三次)、上原陸相辭表。

十七代 大隈重信 (二次)、大浦內相選擧干涉。

十八代 寺內正毅、 米騷動。

十九代原敬、暗殺。

一十代 高橋是淸、 政友會內部對立。

二十一代 加藤友三郎、病死。

二十二代 山本權兵衞 (三次)、 虎の門事件 (攝政宮狙擊)。

二十三代 清浦圭吾、 政友會の分裂。

二十四代 加藤高明、 病死。

二十五代 若槻禮次郎、片岡藏相失言。

二十六代 田中義一、 鈴木喜三郎內相の選擧干渉。

一十七代 濱口雄幸、 統帥權干犯問題。 東京驛頭にて兇彈に斃る。

一十八代

若槻禮次郎

(二次)、安達內相の首を切れず。

二十九代 犬養毅、 五・一五事件、死亡。

三十代

齋藤實、

帝人事件。(でつち上げ)

三十一代 岡田啓介、 二・二六事件。

三十二代 廣田弘毅、 寺内陸相の腹切り問答。

三十三代 林銑十郎、 食ひ逃げ解散。

三十四代 近衞文麿、 シナ事變新段階。

三十五代 平沼騏一郎、歐州の天地複雜怪奇。

三十六代 阿部信行、 爲すことなし。

三十七代 米內光正、 畑陸軍大臣辭表。

三十八代 近衞文麿 (二次)、松岡外相を切るため。

三十九代 近衛文麿 (三次)、 日米頂上會談成立せず。 ゾルゲ事件發覺が總辭職 0) 因

となる。

四十代 東條英機、 岸國務大臣の辭任拒否。 大東亞戰爭戰局不振

四十一代 小磯國昭、 南京政府高官を仲介役とする案への反撥。

四十二代。鈴木貫太郎、終戰。

に似て居る由。 き機會となるらむ。 今は 1 ンタ ネッ トに 渡部昇一先生によらば、 て調ぶること容易なる内容にはあれど、 國史は無數の水滴の 中に虹を見むとする行爲 改めて歴史を振り返るよ

毅時代に現役武官制を復活したる失敗、 なほ、 (小生同期F君の親類) 十六代山本權兵衞內閣時に陸海軍大臣の現役武官制を廢止 の勇氣を絶贊したる箇所は特に印象に殘る。 肝に銘ずべし。) したる陸軍大臣木越安 (三十二代廣田弘

(平成二十八年二月十二日受附)